

WebFOCUS インストール時の追加手順 for Linux Version 8.2.06.38

このマニュアルでは、WebFOCUS for Linux インストール後の環境設定、Resource Analyzer の日本語パッチの適用、WebFOCUS の Unicode 構成、ReportCaster の Unicode 構成について説明します。

必要なトピックを選択し、作業を行ってください。

トピック

対象ユーザ

- | | |
|--|-------------------------------------|
| ☐ 通貨記号と日付の日本語表示設定 | ✓ すべてのユーザ |
| ☐ WebFOCUS の Unicode 構成 | ✓ WebFOCUS を Unicode 構成で利用するユーザ |
| ☐ ReportCaster の Unicode 構成 | ✓ ReportCaster を Unicode 環境で使用するユーザ |
| ☐ Resource Analyzer 日本語パッチの適用 | ✓ Resource Analyzer 利用ユーザ |

通貨記号と日付の日本語表示設定

通貨記号(円)の設定、日付の日本語表示設定

1. WebFOCUS Reporting Server のサービスを起動します。
2. Web コンソールにアクセスします。

ブラウザを起動し、次の URL にアクセスします。

http://hostname:port/

説明：

hostname

WebFOCUS Reporting Server を実行しているマシンのホスト名または IP アドレスです。

port

インストール時に指定した HTTP ポートです。デフォルトは 8121 です。

3. 左のメニューから[ワークスペース]を選択し、画面左に表示される[構成ファイル]を展開し、[サーバプロファイル - edasprof.prfl] を右クリックし、[編集] を選択します。
4. 表示されるプロファイルの編集画面で、以下の 2 行の SET コマンドを指定し、[保存] ボタンをクリックします。

SET CURRSYMB = JPY

SET DATEOUTPUT=LOCALIZED

補足：

Web コンソールの [ワークスペース] - [設定] - [LOCALE] にて日本語に関する設定を実施している場合には、以下のような SET コマンドが設定されている場合があります。以下が設定されていない場合には、必要に応じて下記設定の追加を検討してください。

SET LANGUAGE=JAPANESE

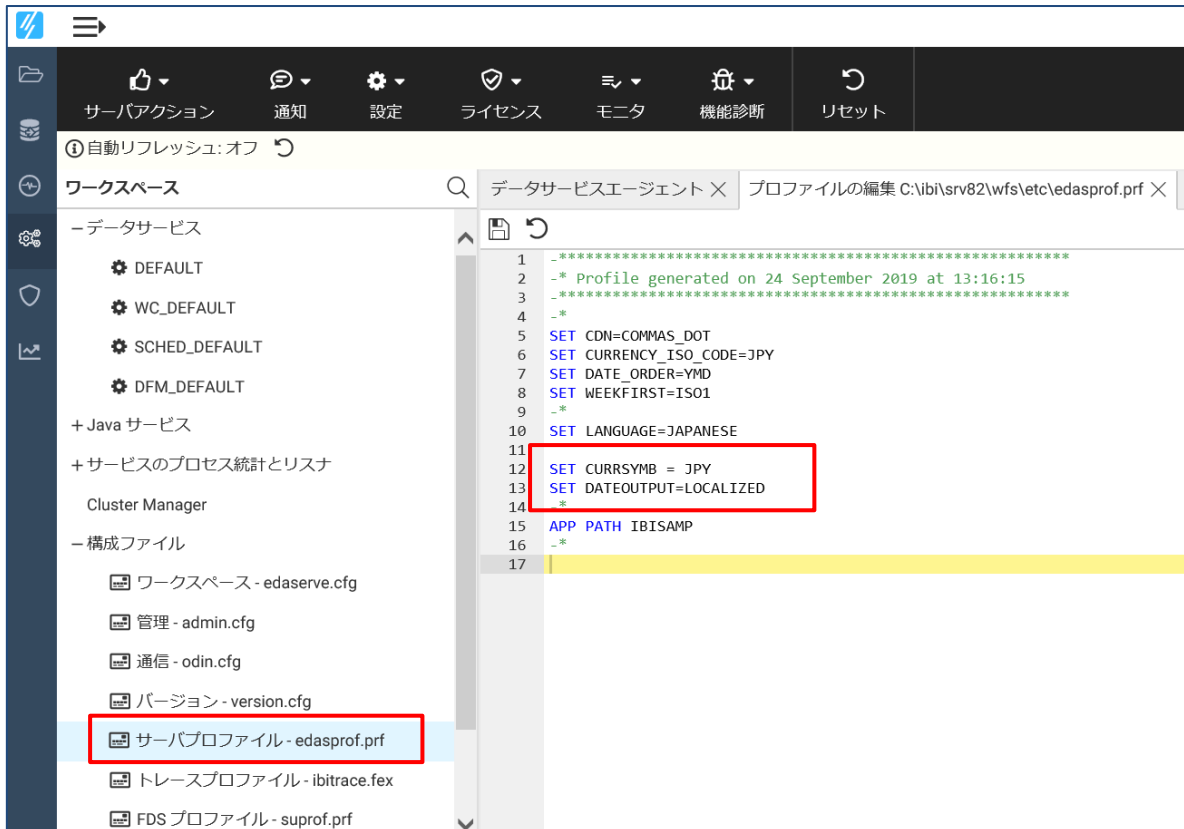
SET CDN=COMMAS_DOT

SET CURRENCY_ISO_CODE=JPY

SET DATE_ORDER=YMD

SET WEEKFIRST=ISO1

サーバプロファイル - edasprof.prfl に上記の設定が無い場合は、上記の SET コマンドを指定してください。



以上で通貨記号と日付の日本語表示設定は終了です。

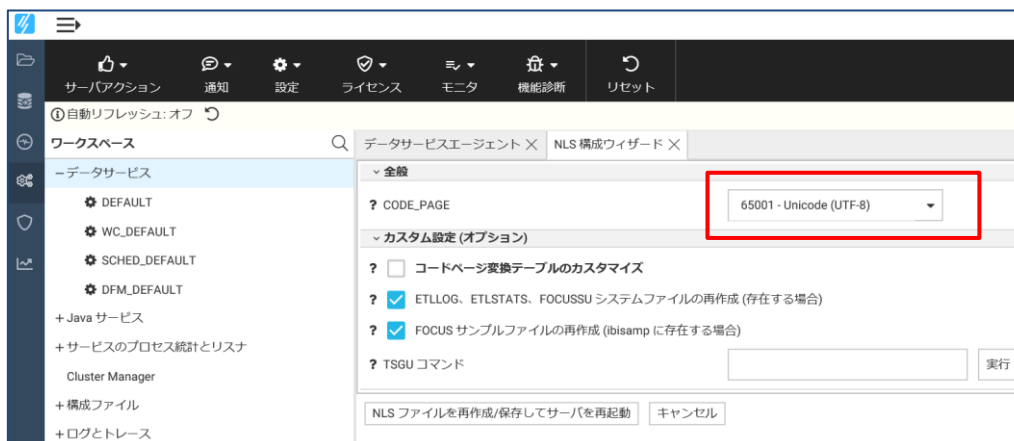
WebFOCUS の Unicode 構成

【事前確認】

WebFOCUS を SJIS 環境で使用する場合はこの手順は必要ありません。

WebFOCUS Reporting Server の CODE_PAGE の変更

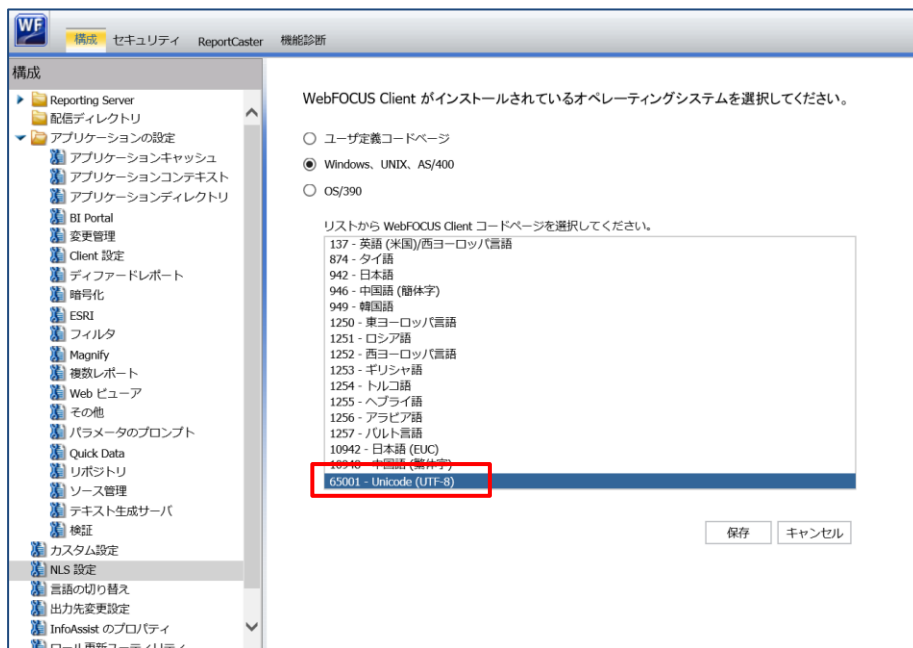
1. Web コンソールにアクセスします。
ブラウザを起動し、次の URL にアクセスします。
`http://hostname:port/`
説明：
hostname
WebFOCUS Reporting Server を実行しているマシンのホスト名または IP アドレスです。
port
インストール時に指定した HTTP ポートです。デフォルトは 8121 です。
2. 左のメニューから[ワークスペース]を選択し、画面上部の [設定] - [LOCALE] - [構成ウィザード]を選択します。
3. CODE_PAGE プルダウンリストから[65001-Unicode(UTF-8)]を選択します。
4. [NLS ファイルを再作成/保存してサーバを再起動]をクリックします。



WebFOCUS Client の CODE_PAGE の変更

1. WebFOCUS 管理コンソールにアクセスします。
`http://hostname:port/ibi_apps/admin`
説明：
hostname:port
Web サーバまたは Application Server のホスト名および HTTP ポート番号です。
Tomcat のスタンドアロン構成では、デフォルトは hostname:8080 です。SSL を使用する必要がある場合は、「http」の代わりに「https」と入力します。
2. ログイン画面が表示されますので、管理者権限を持つユーザでログインします。
管理コンソールが開きます。
3. メニューから[アプリケーションの設定] - [NLS 設定]を選択します。
4. コードページ[65001-Unicode(UTF-8)]を選択し、[保存]をクリックします。

5. 画面右上の[キャッシュのクリア]をクリックし、[OK]をクリックします。



Tomcat の Unicode 構成

Tomcat のファイルエンコーディングを Unicode にするには、環境変数 LANG を UTF-8 に設定してから、Tomcat を起動してください。具体的には、 以下のように環境変数を設定後に、Tomcat を起動します。

例： `$ export LANG=ja_JP.UTF-8`

また、ファイルエンコーディングの指定を CATALINA_OPTS から設定する場合は、次のように環境変数をセットします。

例： `$ export CATALINA_OPTS='-Dfile.encoding=UTF-8 -Duser.country=JP -Duser.language=ja'`

注意： 上記は、WebFOCUS Client と共にインストールされた Tomcat 8.5.51 での設定情報です。

以上で WebFOCUS の Unicode 構成は終了です。

ReportCaster の Unicode 構成

【事前確認】

ReportCaster を SJIS 環境で使用する場合はこの手順は必要ありません。

Distribution Server の起動ファイルを編集します

1. <directory>/ibi/WebFOCUS82/ReportCaster/bin/schbkr をエディタで開きます。
2. 以下の設定を追加します。

`-Dfile.encoding=UTF-8`

指定例：

```
#!/bin/sh
. <directory>/ibi/WebFOCUS82/ReportCaster/bin/classpath
"<directory>/ibi/java/jdk8u212-b03/bin/java" -Dfile.encoding=UTF-8 -
Dreportcaster.home=$DSINSTALL -Dcaster.service=false -
DDSINSTALL_PROD=$DSINSTALL_PROD ibi.broker.SCHScheduler $DSINSTALL
$CMD_LINE_ARGS
```

※ご利用のメンテナンスリリースにより、schbkr の上記内容は実際の記述と異なる場合があります

3. 設定を追加後、ファイルを保存して閉じます。
4. Application Server (Tomcat 等) を再起動します。
5. Distribution Server (schbkr) を起動します。

以上で ReportCaster の Unicode 構成は終了です。

Resource Analyzer 日本語パッチの適用

【事前確認】

Resource Analyzer を使用しない場合はこの手順は必要ありません。

Resource Analyzer 用の日本語パッチは WebFOCUS Reporting Server をインストールしたディレクトリに適用します。日本語パッチを適用する前に WebFOCUS Reporting Server をインストールしたディレクトリを確認してください。

WebFOCUS Reporting Server インストールディレクトリ:

例 : <directory>/ibi/srv82

注意 : 日本語パッチを適用する際は、WebFOCUS Reporting Server を必ず停止してください。

パッチが含まれるインストールモジュールのディレクトリ

64bit/Server/patch_8206s

Resource Analyzer 日本語パッチの適用

パッチファイルの実行

1. 文字コード環境(SJIS、UTF8)に該当するファイルをサーバにコピーします。

(SJIS の場合) [ra_sjis.tar](#)

(UTF8 の場合) [ra_utf8.tar](#)

2. WebFOCUS を構成したユーザで Linux 環境にログインします。

3. パッチの適用を行うディレクトリに移動します。

例 : \$ cd <directory>/ibi/srv82

4. tar ファイルを展開します。

文字コード環境 (SJIS、UTF8) に合致するファイルを展開します。

(SJIS の場合)

例 : \$ tar -xvf <directory>/tmp/ra_sjis.tar

(UTF8 の場合)

例 : \$ tar -xvf <directory>/tmp/ra_utf8.tar

以上で Resource Analyzer 日本語パッチの適用は終了です